啓（ひら）く

横山啓一　市議会だより
２０１９年７月号
〒070-0824 旭川市錦町15丁目2979-6
TEL／FAX（0166）55-5584
E-mail: yokoyama@k-yokoyama.net

教育現場の声を旭川市政に必ず届けます！

4月21日投票の旭川市議会議員選挙におきましては、皆様のおかげをもちまして、大切な議席を獲得することができました。現場教職員の皆さんはもとより、OBをはじめ教育関係の皆さん、地元近文地域の皆さん、伊達高等養護・幌加内中・名寄中・神楽中・啓北中でお世話になった教え子や保護者・地域の皆さんなど、本当に多くの皆様のご支援、ご協力、ご助言をいただき、心より感謝申し上げます。

選挙中は、今の学校現場で子どもたちや教職員、保護者が置かれている現状を何とか変えていきたい、そして、今の教育政策を少しでも動かす力になりたい、そんな思いを強く訴えてまいりました。皆様にいただいたご支援に対し、その責任を重く受け止め、初心を忘れず、全力で取り組んで参ります。

今後とも、一層のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

第2回臨時会

経済文教常任委員会の所属に決定!!

5月16日から5日間の会期で2019（令和元）年度第２回臨時会が開催され、正・副議長選挙、一般会計・特別会計補正予算、各種条例改正などの議案審議が行われました。

それに先立ち、会派所属の届け出、常任委員会所属の協議が行われ、私は「経済文教委員会（以下、経文委）」「広報広聴委員会（以下、広聴広報委）」に所属することになりました。

経文委は「学校及び社会教育に関する事項」の他、「商工業及び観光に関する事項」「農林畜産業に関する事項」と、幅広い分野を担当します。教育現場の実態を知る議員として、教育に関することはもちろんですが、旭川の産業とまちづくりについても、教育や子どもの視点から追究していきたいと思います。

また、**広聴広報委**は市民と議会の意見交換会の企画及び運営、議会広報誌の発行、ホームページの公開などについて担当します。

教育の課題はもちろん、市政に関わる様々なご質問、ご意見、情報などをぜひお寄せください。

横山啓一　わたしの原点

父が46歳の若さで急死したのは、私が高校３年の１月、共通１次試験の直前でした。大学進学をあきらめずにすんだのは、母の後押しもありましたが、入学金・授業料免除と奨学金貸与・返済免除制度のおかげでした。今、高い学費と有利子奨学金の返済に苦しむ若者たちのことを耳にします。教育に十分お金をかけて、**子どもたちが家庭や経済的な事情で夢をあきらめずにすむ世の中**をつくることは急務です。

亡き父は旧樺太豊原市の生まれ。1945年8月22日、日本降伏後の引揚船（第二新興丸）で小樽に向かう途中、留萌沖で潜水艦の攻撃を受けました。沈没は免れ、留萌港にたどり着いたものの、父の長姉が攻撃時に行方不明になりました。（後日、死亡確認） 同日、他に２隻が攻撃を受け沈没。父が別の船に乗っていたら、自分はこの世に生まれなかったかもしれません。戦争で犠牲になるのはいつも弱い立場の人々。**子どもや若者が理不尽に命を奪われる戦争のない世の中**をつくること、そのためにも平和憲法をしっかり守り、生かしていくことが何より求められている現在です。

教員生活のスタートは、伊達高等養護学校。その経験の中で忘れられないのは、一人の保護者の「先生、私はこの子よりも１秒だけ長生きしたいんです」という言葉。**ハンディキャップをもつ人、少数の立場に置かれている人、どんな人も差別なく安心して暮らせる世の中**はまだまだ実現してはいません。

決して望んだ進路ではなかったし、やめようと思ったことも何度かあった教員生活。でも、子どもたちとともに生き、その未来を支える教員という仕事の素晴らしさを、退職した今、改めてかみしめています。「教員は幸せな仕事だった」と。そんな仕事を希望する若者が少なくなっているというのは、とても残念なことです。**教職員が自主的、創造的に働き、子どもと向き合うことに専念できる学校本来の姿を取り戻す**ため、全力を尽くす覚悟です。

第2回定例会

6月19日から10日間の会期で第2回定例会が開催されました。一般会計・特別会計・病院事業会計の補正予算、幼児教育無償化に関わる条例改正、森林整備基金条例の制定など、25本の議案が審議され、原案通り可決しました。

22日から3日間にわたり一般質問が行われ、「学校における働き方改革」「旭川市における文化振興」の２点について、学校現場の厳しい実態などに触れながら質問し、市教委の考え方を示させました。

28日の閉会日には「2020年度予算編成における教育予算の確保・拡充と就学保障の充実を求める意見書」を民主・市民連合会派とともに提案、賛成多数で採択されました。

一般質問（概要）

◎学校における働き方改革について聞きました

◆市独自の「働き方改革推進プラン」策定の経緯、昨年7月の勤務実態調査の結果は

▶学校を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校の役割が拡大傾向にあり、教職員の長時間労働が看過できない状況だ。市教委は、国や道の緊急対策やアクションプランなどをうけ、旭川市の教職員の勤務実態調査の結果を踏まえて、「働き方改革推進プラン」を策定した。1週間当たりの勤務時間が60時間（過労死ライン）を越える教職員の割合が、教頭、主幹教諭、教諭については北海道の結果よりも高く、小学校と中学校の比較では、主幹教諭・教諭、養護教諭においては中学校の方が高い割合になっている。

◆「1週間当たりの勤務時間が60時間を超える教職員をゼロにする」という目標設定は本来的ではない

▶小学校では約25%、中学校では約60%の教諭が、週60時間を超えて勤務していた。まずは、プランの推進期間である3年を目途に目標として設定した。取り組みを進め、週60時間以内の教職員についても、さらに減じるよう取り組むことは必要である。勤務時間等の状況を把握ながら、時間外勤務をゼロに近づけるよう、目標や取り組みの見直し改善についても検討する。

◆中学校部活動の現状、部活動ガイドラインに基づく全市的な取組の状況は

▶旭川市の部活動の時間は、全道と比較しても長い傾向にある。7割弱の教職員が負担感を感じている。今年2月策定の「旭川市中学校部活動ガイドライン」により、活動時間や休養日の設定などに取り組んでいる。校長会や中体連などの関係団体との協議、部活動指導員の配置などによって、教職員の負担が過度にならないよう、着実に進めていく。

◆働き方改革のためには、国や道の制度見直し、教職員定数改善などが必要では

▶改革推進のためには業務内容の見直し・改善の他、教職員の加配など人的な運営体制の充実が必要で、市教委としても市費負担教員やサポートスタッフ、部活動指導員の配置に努力してきた。教職定数改善や専門スタッフの配置などは改革推進の根幹であり、国や道に対して積極的な働きかけを行っていきたい。

◎旭川市における文化振興について聞きました

◆市内の文化施設の存在が、学校現場には有効な情報ととして届いていないのでは

▶子ども向けの事業の情報発信については心がけているが、施設の積極的な利用については至っていない。休日の利用などに向けて充実を図りたい。施設を網羅したガイドブック的なものの発行は難しいが、施設利用に資する情報発信の方策を検討したい。

◆今年「アイヌ施策推進法」が成立したが、市としての現時点の考え方や見通しは

▶国の基本方針を踏まえ、各市町村がアイヌ施策推進地域計画を作成することになる。国の説明を受けて、事前の準備を進めている状況だ。アイヌ文化の普及・振興のために、これまで実施が困難だった地域振興、産業振興、観光振興などを、国の交付金を活用して取り組むことが可能になると考えている。関係部局と連携して幅広く検討を進めていく。

◆近文地域の「アイヌ記念館」「知里幸恵文学碑」「北門中学校郷土資料館」など有効に活用する手立てが必要では

▶昨年の「カムイとともに生きる上川アイヌ」の日本遺産認定、来年4月の白老町「国立アイヌ民族博物館」のオープンなど、アイヌ文化に対する国民の関心は今後ますます高まっていくと予想する。旭川市内各所にある施設について展示品やイベントなどの情報発信を充実し、周遊ルートなどを開発することが重要である。市民や観光客のアイヌ文化への理解を深めるための施策について検討していく。

自宅前の道路をはさんだ北門中学校の敷地内に「**知里幸恵文学碑**」が立っています。彼女の唯一の著作『アイヌ神謡集』が生まれる素地がつくられた地として、広く知ってほしい場所です。中学校内の「**郷土資料館**」も、彼女の短い一生をたどる貴重な資料が集まっています。旭川市の貴重な財産として、有効な活用方法を考えていきます。ところで、北門中の職員玄関に砂澤ビッキの作品が展示されているのはご存じでしょうか？

■**市議会**で何が審議され、議員がどのようか活動をしているのかを知っていただくために、議会傍聴やインターネット中継、会議録の公開などが行われています。**第２回定例会**については、すでに**録画中継**が議会ホームページにアップされています。ご覧になれる環境にある方は、詳細な質疑応答の様子をぜひご視聴ください。また、ご意見、ご質問があれば、お電話、FAX、メールなどでお寄せください。お待ちしています！